

2022 年度グローバルイノベーション研究院 (GIR)

戦略的研究チーム 公募要項 (追加公募)

1. 趣旨

本学は重点 3 分野 (食料、エネルギー、ライフサイエンス) の研究を推進し、社会的要請の高い研究課題において先進的な研究成果を創出することを目指しています。

GIR は機能強化の取組推進のため、研究特区・研究院として海外の著名な研究者・研究機関と連携して最先端の研究を行うことのできる仕組みを構築することを目的としています。国際共同研究体制の増強のため、**対面 (来日招聘・海外派遣) での関係構築を基とした国際共同研究を趣旨とした**戦略的研究チームの新規提案を公募します。

2. 提案条件

重点 3 分野 (食料、エネルギー、ライフサイエンス) のいずれかにおける国際共同研究を本学教員がチームリーダーとして推進するものです。提案に係る条件は以下のとおりです。

◇チーム区分の撤廃

- ・昨年度公募まで用いていたチーム区分 (「一般枠」及び「若手枠」) を撤廃します。
- ・シニア教員のみでのチーム編成は妨げませんが、**若手研究者支援の見地から、積極的に若手研究者を編成する**チームが望ましいです。

※若手研究者：2022 年 4 月 1 日現在において 47 歳未満である本学教員。

◇チーム編成

- ・世界的に著名な**外国人研究者を 1 名以上、及び本学教員 6 名以内**により編成してください。
- ・今まで関係が薄かった (もしくは無かった) 極めて優れた外国人研究者との**新しい人脈づくり (関係強化)**を意識した編成が望ましいです。
- ・**スーパー教授級の外国人研究者については編成を必須とはしません。**
ただし、可能な限りスーパー教授級を編成することが望ましいです。
- ・(再掲) シニア教員のみでのチーム編成は妨げませんが、**若手研究者支援の見地から、積極的に若手研究者を編成する**チームが望ましいです。

◇外国人研究者の職位

- ・外国人研究者の職位は以下のとおりであり、後述の職位審査を以て決定します。
 - ①教授 (スーパー教授) 又は特任教授 (スーパー教授) (以下「スーパー教授」)
世界的な活躍をする著名な外国人研究者であり、チームの中核を担う者。
 - ②特任教授 (グローバルイノベーション)
チームにおいて国際共同研究を牽引する、特に優れた知見と高い業績を持つ者。
 - ③特任准教授 (グローバルイノベーション)
チームにおいて研究推進に貢献する者。
- ・職位審査では Web of Science による当該外国人研究者の論文数、被引用数、平均被引用

数、H-index を用いて GIR 運営委員会が個別に審議します。

◇研究計画（来日・派遣等）

- ・ 外国人研究者を原則、年度中において 1 ヶ月（31 日）以上の招聘（雇用）をする計画としてください。ただし、外国人研究者との関係構築・国際共同研究の推進のため、コロナ禍とチーム予算額（後述）を考慮したうえで、外国人研究者の来日招聘に代えて、本学教員の海外派遣・出張を計画に盛り込むことも審議の上で認めます。
- ・ 国際共著論文の増加が見込まれ、具体的な論文作成目標値を設定できること。
- ・ チームにおいて若手研究者の育成が重視されていること。
- ・ 受入研究者（チーム）の研究力があり、研究計画、研究場所、研究資金が充分であること。

◇他チーム・ユニットとの重複不可と組替え

新規提案含め全チーム及び GRH 研究ユニットとの間での研究者の重複は認めません。提案にあたっては GIR ウェブサイトに公開する各チームを参照し、検討してください。

（GIR ウェブサイト 分野・チーム紹介ページ <https://www.tuat-global.jp/pr/>）

ただし、以下の条件に適合する場合は、既存の戦略的研究チームに属する教員からの応募を可能とします。

- ・ 活動期間中の既存チームメンバーは、新規提案のチームリーダーもしくは構成メンバーとして応募できます。ただし、その場合は当該既存チームから抜けることとなるため、提案にあたり当該既存チームの承認を得てください。
- ・ 当該既存チームは、構成メンバーが抜けた場合、計画内容に変更が生じるため、「2022 年度戦略的研究チーム研究計画書」を再提出してください。
- ・ 活動期間（3 年）終了予定の既存チームのチームリーダー及びメンバーが新規チームリーダーとして提案する場合は、既存チームからの単なる継続ではなく、本学教員、外国人研究者共に新たな構成メンバー及び新たな研究内容を含めた提案としてください。

3. 研究実施期間

本公募による戦略的研究チームの研究実施期間は **2024（R6）年度末まで**とします。ただし、研究成果をもとにした審議により、支援期間が短くなる場合があります。

4. 応募区分及び採択チーム数

重点 3 分野について 若干数

5. 提案様式

◇2022 年度 GIR 戦略的研究チーム新規提案書（指定様式）

下記 URL よりダウンロードしてください。

（GIR ウェブサイト チーム公募 <https://www.tuat-global.jp/op/tuat/7095/>）

◇外国人研究者 履歴書 CV（様式任意）

提案書と併せて外国人研究者に関する CV を提出してください。GIR にて招聘実績のある者であり、当時より変更（機関や職位など）が無い場合は省略できるものとします。

6. 経費計画

新規提案書「8.経費計画」に《作成上の注意》等に基づき記入してください。

※外国人研究者招へいによる特筆すべき効果が見込まれる場合、予算枠を超過して申請することも可能とする。ただし、配分の可否は GIR 運営委員会の審査によるものとします。

- ・ 最小の費用で最大の効果が得られるよう、費用対効果を踏まえた内容としてください。
- ・ 2022 年度外国人研究者の人件費・赴任旅費及び研究経費

外国人研究者人件費・赴任旅費（合計）	2,750 千円 上限
チーム研究基盤経費	500 千円

- ・ 外国人研究者の滞在費は GIR 負担とするため、本欄では計上不要。
- ・ （再掲）外国人研究者との関係構築・国際共同研究の推進のため、コロナ禍とチーム予算額を考慮したうえで、外国人研究者の来日招聘に代えて、本学教員の海外派遣・出張を計画に計上することも、GIR 運営委員会審議の上で認めます。

7. 選考・審査基準

採否はグローバルイノベーション研究院運営委員会の審議により決定します。

新規提案書について、以下項目を審査します。（各項目 20 点満点）

- ・ 外国人教員赴任計画
- ・ チームの概要及び外国人研究者雇用による特筆すべき効果等
- ・ 外国人研究者及び受け入れ代表研究者の実績
- ・ 研究目的・研究計画・方法
- ・ 活動する年度に目標とする国際共著論文

審査において重要視する項目は以下のとおりです。

◇提案内容

- ・ 世界的に活躍する著名な外国人研究者との共同研究であること（スーパー教授等の編成）
- ・ 今まで関係が薄かった（もしくは無かった）極めて優れた外国人研究者との新しい人脈づくり（関係強化）が意識されているか。
- ・ 研究体制と内容に実現性があり、国際共著論文の増加が見込まれること。
- ・ 研究内容が斬新であり、社会的にインパクトがあること。
- ・ 若手研究者（博士課程学生を含む）の育成を重視していること。
- ・ 招聘・派遣がチームの研究力向上にどの様に波及するか明記されていること、及び、その効果を得るために十分な交流期間が確保されていること。

◇チームリーダー及び外国人研究者の実績

- ・ 外部資金獲得実績 ・ Web of Science の論文数、被引用数、平均被引用数、H-index

8. 応募方法及び提出期限

新規提案書を **2022 年 6 月 10 日 (金) 17 時**までに研究支援課(girjim@cc.tuat.ac.jp)宛に電子ファイルにより提出してください (メール件名【2022 年度戦略的研究チーム公募 応募者氏名】)。期限を超過したものは無効とします。

9. 安全保障管理義務について

我が国をはじめとする主要国では、武器や軍事転用可能な貨物・技術が、安全保障上懸念のある国家やテロリストに渡ることを防ぐため、国際的な枠組み (国際輸出管理レジーム) を作り、国際社会が協調して厳格な管理を行っています。本学では、安全保障管理室を設置し、教職員、学生の国際交流や国際共同研究に支障が生じないように取り組んでいます。

GIR の国際共同研究においても同様の管理義務があり、当該外国人研究者と研究計画について管理ルールに反する内容が無いのか、本学の安全保障管理室 (研究リスクマネジメント室) によるヒアリングを実施します。この結果により提案を受理できない可能性がありますので、ご承知おきください。

安全保障管理に関する情報は下記 URL をご参照ください。

(参考) 本学ウェブサイト 安全保障管理 (学内専用) <https://www.tuat.ac.jp/i-campus/anpo/>

10. その他

GIR では若手研究者育成、国際共同研究推進、質の高い研究成果の発信による本学のプレゼンス向上といったミッションを達成すべく、以下のような支援事業を実施しています。

- ・ チーム付特任助教の公募採用 ・ 海外渡航支援事業
- ・ 海外公的研究費申請書翻訳校正支援 ・ 海外外部資金マッチングファンド など

詳細は GIR ウェブサイト (<https://www.tuat-global.jp/>) をご参照、もしくは GIR 支援係までお問合せください。

【担当・問い合わせ】

研究支援課研究推進室 GIR 支援係 内野・久富・小林

内線 5646 Email: girjim@cc.tuat.ac.jp

GIR 戦略的研究チームに関する URL <https://www.tuat-global.jp/op/tuat/7095/>

戦略的研究チーム公募に関する Q&A

【外国人研究者について】

Q1：外国人研究者は外国籍で日本に居住している者でもよいでしょうか。また、日本国籍で外国に居住している者でもよいでしょうか。

A1：本要項の外国人研究者とは、「海外の研究機関に所属している研究者」となります。

すなわち、外国籍でも日本の研究機関に所属している場合は、含まれません。日本国籍でも海外の研究機関に所属して海外を本拠地としている場合は、含まれます。

Q2：外国人研究者に内諾をとる必要がありますか。

A2：提出された提案書をもとに戦略的研究チームの選定が行われます。選定された場合に、外国人研究者を提案書のとおり、雇用もしくは招聘することができるよう、あらかじめ確認しておくことが必要です。

Q3：外国人研究者を雇用した場合の勤務形態について

A3：外国人研究者は裁量労働制となります。

【来日（雇用・招聘）の条件について】

Q4：連続 31 日以上連続雇用が難しい場合は、どのように対応すべきでしょうか。

A4：年度内において 31 日以上連続来日期間が確保された場合、雇用として手続きを行います。ただし、お認めできる来日回数は年度内 2 回までとなります。来日期間が 31 日に満たない場合は、招へいの手続きとなります。招へいの場合は雇用と比べて、待遇が相応に低減することになります。

Q5：外国人研究者の短期招聘は可能ですか。

A5：滞在日数 14 日未満の招聘は原則不可です。やむを得ない事情で、短期招聘する場合には「理由書」を提出し、GIR 運営委員会の承認が必要となります。

【チーム経費について】

Q6：外国人研究者の人件費、旅費について上限はありますか。

A6：1 チームあたりの外国人研究者の人件費及び赴任旅費の総額は 2,750 千円を上限とします。ただし、外国人研究者招へいによる特筆すべき効果が見込まれる場合、GIR 運営委員会の審議により予算枠を超過することも検討します。

Q7：外国人研究者を招へいするための旅費は実費で支出することが可能ですか。

A7：招へいするための旅費は、原則、実費支給となりますが、1 チームあたりの旅費上限額内で運用していただくことになり、予算残額によっては制限する場合があります。

【外国人研究者の来日（雇用・招聘）中の行動について】

Q8：雇用の途中に海外の国際会議に参加する場合、雇用は途切れますか。

A8：雇用期間中に GIR 用務として国際会議に参加される場合、雇用は途切れません。

Q9：外国人研究者の雇用期間中、国内出張、外国出張の制限はありますか。

A9：雇用期間中の、国内、外国へ出張の制限はありません。

（出張の用務内容は GIR の研究活動に関する用務とし、その旅費はチームに配分する研究費から支出いただきます。）

Q10：外国人研究者が土日祝日を利用して母国へ帰国し、平日は日本へ戻って勤務することは認められますか。

A10：土日祝日を利用した場合については制限を設けておりませんので、雇用期間中の勤務に支障がなければ問題ありません。私事の場合は、往復の旅費について GIR 予算から支出はできません。

【新型コロナウイルス感染症への対応について】

Q11：新型コロナウイルス感染症拡大防止のための出入国規制によって外国人研究者の雇用・招へいが困難ですが、研究計画で来日予定は必要ですか。

A11：出入国規制の継続や緩和の状況が予測できないため、従来の出入国ができる想定で計画を作成してください。実績評価時はコロナ禍による進捗への影響について別途報告をいただくことで、実情に合わせた評価を行います。なお、GIR 外国人研究者が出入国規制によって来日ができない場合に限り、オンラインでの共同研究（研究指導等）に報酬がお支払いできる謝金特別単価を新設しましたので、来日予定時期に日本へ入国できない場合は本制度をご活用ください。

Q12：新型コロナウイルス感染症拡大防止のための出入国規制によって本学教員の海外派遣・出張も困難ですが、研究計画で海外派遣・出張予定は必要ですか。

A12：日本及び各国の出入国規制の継続や緩和の状況が予測できないため、従来の出入国ができる想定で計画を作成してください。実績評価時はコロナ禍による進捗への影響について別途報告をいただくことで、外国人研究者の雇用・招へい同様、実情に合わせた評価を行います。